

# 報 告 書

開催日時	令和8年2月18日(水) 19時30分～21時00分		
自治協議会名	猪田地区住民自治協議会	開催場所	猪田地区市民センター
出席議員	森中 秀哲、宮崎 栄樹、浅川 友和、内原 篤		
	班長	森中 秀哲	記録・報告者 内原 篤
参加人数	18名(自治協役員、区長、消防団班長等)		

## 【主な意見・提言等】

### テーマ【消防団の担い手不足】

#### 1. 消防団から現状の報告

- 猪田部消防団員は現在、17名で3台のポンプ(猪田、山出、上之庄)を管理し、それぞれに班長がいる。  
日頃の活動としては、月に1回の機械器具を使用した訓練や防災資機材の取扱訓練を計画的に実施している。日頃の主な活動は風水害、初期消火活動、また行方不明者が出た場合の捜索など。
- 猪田部消防団では30代、40代が多く、50代の団員も在籍。一方で、次の世代である20代の若手が少なく、消防団の担い手不足が懸念されている。
- 現在、消防団各班と地区役員が、各班の状況や今後の課題について、課題整理・検討を進めている。
- 猪田のある班には現在、団員がいない状況となっている。そのため、その班のポンプは別の2班が代わりに管理している。団員がいなくなった班では次の担い手を見つけるため、地域で依頼に歩いたが、多忙などを理由に断られ続け、現役の団員から「いつまで自分達だけがしなければいけないのか」との不満が募り、皆で退団となってしまった。
- 過去には、地域に住んでいて消防団に入らない方に対してお金を徴収する事もあったが、現在はそのような事はしなくなった。  
あくまでも本人の意思によるため、強制できず、団員の確保が難しくなっている。
- ある班の班長は現在40代であり、20代の時に自分は消防団として活動をしていた。現在は名張市に住んでいるが地元の事でもあり、次の担い手がないとの理由からこの地域で新たに消防団員として活動をしている。  
実際は人がいるのに出ていない地区もあるのではないかと。まじめに頑張っている人が損をするという感じがしてならない。
- ある班は現在、4名が所属。組織構成は30代～50代となっている。このうち2名が他の地域から来られた方であり、それ以来約10年間、新たな入団者はいない。
- 近頃は他の地域から応援に来てもらい、助け合っている地域が多くなっている。

## 2. 議員・区長等も参加した意見交換

- ・猪田は比較的平和で災害の少ない地域である。過去に大きな災害も比較的少なく、そのため消防に対する必要性を感じにくい一面もある。
- ・担い手が少ない中で、もう少し「地域に貢献をしよう」との気持ちを持ってもらいたい。
- ・最近では地域を大切にすることが薄らいできていることが残念に思えてならない。  
「うちの息子は仕事が忙しい。うちの家は無理。」との家が最近はとても多い。  
また、入団しない理由に「消防団の数年先が見えないからやりたくない。」「一度入れば、やめる事ができないから最初から入らない。」との意見もあるのが今の地域の現状。
- ・消防団に携わってきた事により学ぶ事も多く、様々な面での感謝もある。やらされているといった気持ちはないが、消防組織の先の見えなさが心配。
- ・猪田は他の地域に住んでいる方や仕事で遠くにいて、すぐに駆けつけることの出来ない方がいる為、地元にいる人で火災などの初動の対応をする必要がある。70代の元気な人を活用する方法はないか。
- ・震災などの災害を想定して道が寸断され、孤立しそうな地域などに対して、ある一定程度の備蓄が必要となる。
- ・火事などがあれば、消防団員は朝まで対応することがあり、職場との調整が必要。
- ・しかし、最近では消防への協力する企業が増えている。消防団員の減少が問題視される中において、今後さらに協力してくださる企業が増えるのではないか。
- ・地区市民センターの隣にある小学校は避難所になっているが、統廃合の問題もあり、今後はどうなってしまうのか心配である。

以上の意見交換より、下記のような点が今後の課題として共有された。

- ① 地域の消防団活動の位置付け（公設消防や地区自主防災活動との連携）
- ② 猪田地区での消防団や消防団活動へのプレゼンス向上・地区からの感謝表明
- ③ 担い手不足を地区で補完する制度（外国人住民活用、非団員の消火活動など）
- ④ 消防団協力事業所のメリットを高める（入札等での加点など）

伊賀市議会議長 様

令和8年2月23日

上記のとおり、地域意見交換会の概要について報告いたします。

令和7年度 地域意見交換会 1班

班長 森中 秀哲